

人のぬくもりと  
ふれあいが奏でる躍動のまち  
丹波高原文化の郷●京丹波

# 広報 京丹波

KYOTAMBA

No.69  
7月号

2011年7月14日発行

自然が織り成す造形美





ライトアップされ神秘的に輝く鍾乳石



スリル満点のほぼ垂直な階段

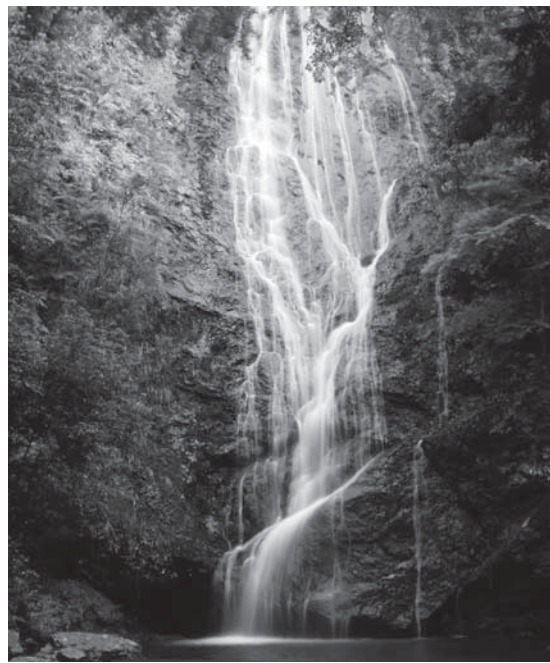
## 代表的な観光名所

### 府内唯一の縦穴式鍾乳洞「質志鍾乳洞」

日本でも珍しい縦穴式鍾乳洞で、ライトアップされた洞内は神秘的な空間を醸し出し、ほぼ垂直な階段で深さ25mの最下層まで下りることができます。府指定文化財の天然記念物に登録され、周囲にはキャンプなどが楽しめる公園も整備されています。

### 丹波高原の雄峰「長老ヶ岳」

標高916.9mの山頂から眺める展望は絶景で、青空、雲海、日の出などの景色は格別です。町指定文化財の「七色の木」をはじめ、「権現谷」など数多くの観光資源があり、ハイキングコースとしても多くの人が訪れます。



琴糸を連想させる美しい水の流れ

### 名勝「琴滝」

町指定文化財の名勝であり、高さ43mの巨大な一枚岩を伝う水の流れが十三弦の琴糸のように美しく、周囲の景色に合わせて四季折々に装いを変えます。12月にはイルミネーションイベント「冬ほたる」の舞台となり、幻想的な世界を醸し出します。



周りの山々が見渡せる山頂からの展望

観光情報の集約と発信、そして観光を通じて地域活性化を図ることを目的に設立された「京丹波町観光協会」。観光を取り巻く現状や、京丹波町観光協会設立委員会(以下「設立委員会」)での協議内容、観光協会の取り組みなどについてお伝えします。

# 京丹波町 観光協会が発足

## 観光振興の中心的役割を担う

## 観

### 光を取り巻く現状

本町には、琴滝、質志鍾乳洞、長老ヶ岳などの名所をはじめ、清らかな流れを見せる由良川や四季折々に彩りを変える山々、田園風景など、悠久の歴史の中で育まれてきた観光資源が町内各所にあり、それを生かした「冬ほたる」や「あっぱれたんぼ」のようなイベントなども活発

に行われています。ほかに、先人が生み出し、多くの人々に守られながら受け継がれてきた文化財や伝統芸能、豊かな自然の恵みを受けた丹波ブランド産品などの地域資源も数多くあり、観光客を魅了する要素がたくさんあります。

しかし、多くの資源を有していても、町民の共通認識としてメインと言えるものがなく、町をPRする際の決め手に欠けることや、町全体としての観光情報が集約できていなかったことから、一つのイベント、一つの施設といった個々の情報発信となりがちで、観光客が一つの名所を目的に本町を訪れると、他の観光地などの情報がなく、京丹波町全体の良さを知らずともらいにくい状況でした。

また、本町においては交通網などのインフラ整備が進んでおり、平成二十年に京都縦貫自動車道・丹波綾部道路の綾部安国寺インターから京丹波わちインターまでが完成したのをはじめとして、二十一年には国道二十七号下山バイパスが開通し、二十二年には町営バスの土曜日運行を開始。今後も、平成二十四年度に畑川ダム完成や京都第二外環状道路の供用開始、平成二十六年に京都縦貫自動車道・丹波綾部道路の全線開通が予定されるなど、本町の観光振興を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。

このようなことから、町内の観光情報などを集約し、観光客が求める情報を発信する窓口となる「観光協会」の設立を要望する声が多くあり、本年四月十九日には「設立委員会」が発足しました。



今月の表紙

きらめく木漏れ日、新緑に映える木々、そして静寂の森の中に響く清らかな滝の水音。自然が織り成す造形美「琴滝」は、訪れる人たちを別世界へ誘い、時が経つのを忘れさせます。

## No.69 CONTENTS

- 2 観光振興の中心的役割を担う  
京丹波町観光協会が発足
- 6 食と景観で下大久保の魅力を発信  
耳うどんと彼岸花で村おこし
- 8 京丹波の心を伝える  
シリーズ 「国民文化祭」と「食の祭典」の  
魅力を探る
- 10 丹波PA(仮称)と一体的な地域振興拠点整備に向けて  
「基本計画策定委員会」と  
「ワーキング会議」が発足
- 11 田園風景を鮮やかに彩る  
「あっぱれたんぼ」
- 12 地域包括ケアシステムの構築に向けて  
「地域包括ケアシステムネットワーク協議会」が発足
- 13 Dr's Message いきいき健康術
- 14 FLASH KYOTAMBA TOWN NEWS 2011
  - 消費者と生産者が力を合わせた取り組み  
—南丹おいしい食の応援隊
  - 京丹波町病院が「初期被ばく医療機関」に指定  
—指定を受け放射能をテーマに研修会を開催
  - 交流を深めながらチーム優勝を目指す  
—グラウンド・ゴルフ大会
  - ボランティアで中学校の教育環境を整備  
—町建設業協会青年部が地域貢献活動
  - 地域の伝言板 わくわくBOX
  - 地元と町、大学が協働で跡地問題を考える  
—鳥インフルエンザ発生農場跡地活用構想策定に関する  
協定調印式
  - アイスクリームとバターづくりを体験  
—ふれあいサタデークラブ
  - 美しい音色と蛍火で初夏を感じる  
—ほたるファンタジー



# 多くの人々の 思いが形に 丹波マーケスで事務所開き

約三か月という短期間で議論と検討を重ね、発足に向けての準備を進めてきた設立委員会。観光振興にかけ  
る熱い思いが実を結び、七月一日には観光情報の総会窓口となる事務所を丹波マーケス内に開所しました。

## ゼロからの出発、 設立委員会の取り組み

発足以降、六回の会合で検討を重ねてきた設立委員会。四月十九日の初会合では、協会設立の目標を七月一日と定め、協会運営の根幹となる観光施策の方向性について議論。委員からは、「観光施設や体験施設などが点の状態であり、線で結ばれていない」「行政主導の観光施策であるため、民間のノウハウが反映されていない」などの意見が出され、観光協会を中心とした連携の必要性を改めて確認しました。

結果を踏まえ、五月十日と十九日の会合では、協会の役割をはじめ、事務所の位置を丹波マーケス内に置くことや、規約、予算などについて協議。続く三十一日の会合では、会員の募集方法について議論を重ね、従来のように観光関連事業者から多額の会費を集めるのではなく、誰もが入りやすい

ように二口千円の会費とすることで確認し、六月一日から募集を開始しました。

規約や事務所の位置が決定し、実際に会員募集も始まったことから、六月十日と二十二日の会合では、設立



議論を交わす委員(役場議員控室・蒲生)

総会の開催内容について協議するとともに、二十二日には観光協会の事務所となる丹波マーケス内を視察し、開所後の姿を思い浮かべながら詳細にわたつての最終確認を行いました。まさにゼロからの出発の中、約三か月の短期間に集中して議論を重ね、準備を進めてきた設立委員会。京丹波町を観光面から活性化させたいとの思いが実を結び、七月一日には念願の観光協会が発足しました。

## 設立総会で 観光協会の発足を祝う

七月一日、多くの人々が待ち望んだ観光協会が発足し、四十四人の会員が出席する中、丹波マーケスコミュニティホールで設立総会を開催しました。

総会では、設立委員会の岡本久委員長の開会あいさつを皮切りに、寺尾



役員を代表して就任あいさつをする岡本会長(丹波マーケス、須知)

豊爾町長ら来賓が祝辞を披露。議事に入ると、設立趣意書と規約の承認、理事および監事の選任、平成二十三年度事業計画および予算の決定について審議され、関係者ら全員で観光協会の発足を盛大に祝いました。続いて、京都府立大学環境デザイン学科・宗田好史准教授による「創造都市のための観光振興」と題した記念講演が行われ、参加者は観光振興についての認識を深めていました。

### 観光協会役員

※敬称略

- 会長／岡本久(蒲生)
- 副会長／西山芳明(猪鼻)
- 理事／岩田恵一(質美)
- 理事／湊嘉秀(須知)
- 中西英夫(本庄)
- 太田裕(南丹市)
- 森隆(南丹市)
- 山鳥喜子(口八田)
- 榎本藤雄(下粟野)
- 監事／谷口忍(塩田谷)

### 観光協会の概要

- 住所 京丹波町須知色紙田3-5 (丹波マーケス内)
- 電話 89-1717
- 会員数 213(設立時点)  
\*団体107、個人106
- 事業計画(23年度)  
ホームページの立ち上げ  
観光窓口の開設  
観光パンフレット作成  
関係機関・団体との連携  
観光イベントの開催支援



観光案内をする事務職員(観光協会事務所、須知)

### インタビュー



京丹波町観光協会  
会長 岡本久さん

#### 観光をキーワードに 京丹波町の活性化を

設立委員会では委員長を務めさせていただき、設立後は会長として運営に携わっていただくことになりました。京丹波町をさらに豊かで魅力あふれる地域とするために、楽しい気持ちを持って明るく

前向きに運営していきたいと考えています。本町には、古くから守り育ててきた文化遺産や自然景観を生かした観光施設などがあり、町の魅力を発信するイベントなども実施されています。これらの貴重な観光要素を、豊かな食料・特産物も含めて町外の皆様に興味を持っていただけるように分かりやすく伝え、より一層の観光客獲得に尽力していきたいと思っています。協会の設立目的の第一は「京丹波町の活性化」に貢献することであり、多くの方のご意見を取り入れて発任意義のあるものにしていきたいと考えています。そのため、観光事業に直接関わる企業や施設だけではなく、京丹波町全体での取り組みにしていくことが何よりも重要と思っています。協会運営には、町民の皆様のご協力が不可欠となりますので、多くの企業や個人の方に入会いただきませうお願いします。

### 観光協会からのお知らせ

#### 観光情報について

各種イベントや体験事業、名所、景観地など、京丹波町の魅力を発信するための情報を募集しています。

特に、農作業体験などの受け入れ情報を積極的に発信していきたいと考えていますので、次のような体験事業を実施される方は情報をお寄せください。

#### ○お寄せいただきたい情報

- 農作業体験
  - 収穫体験(栗拾い、黒豆収穫体験、もぎ取り体験など)
  - その他農業に関わる体験
- \*情報があれば、「体験内容」「体験時期」「予約の有無」「問い合わせ先」などをご連絡ください。

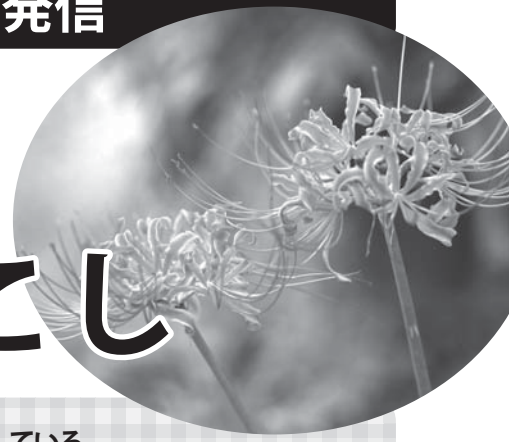
#### 会員を随時募集しています

年会費は一口千円で、入会申込書は観光協会事務所と産業振興課に設置しています。多くの方の入会をお待ちしています。



食と景観で下大久保の魅力を発信

# 耳うどんと 彼岸花で村おこし



下大久保ファンを増やし、元気な集落づくりを目指して活動している  
「下大久保虹の村づくりの会」。地域資源を生かした「耳うどん」と「彼岸花」による取り組みが、  
区民一丸となって行われています。

下大久保区と京都学園大学で組織する「下大久保虹の村づくりの会」が六月十二日、彼岸花の球根植栽と耳うどん作りの体験実習を行いました。

この日は、初めに同会の畠中二三雄会長が昨年と同大学と協定を結んだ際の決意表明を読み上げて活動の趣旨を説明した後、「けがのないように注意し、楽しい思い出となるような活動をして下大久保の発展につなげていきましょう」とあいさつ。続いて、参加者は国道九号から見える田んぼの畦に移動し、彼岸花の特徴や植え方などの説明を受けた後、千球を超える球根を約三十秒の間隔で三球ずつ植え付けていきました。

その後、下大久保文化教育センターに場所を移し、耳うどん作りを体験。参加者は、作り方の説明を受けながら、中力粉に塩水を加えた生地をこねて大きな団子状にした後、ビニール袋に入れてコシを出すための足ふみ作業を行い、適当な大きさに切つて耳の形に整え、実際に耳うどんを調理。最後には、参加者全員で懇談しながら試食し、新たな地域名物の味を堪能しました。

彼岸花  
球根植栽



球根の植え方について説明を受ける参加者



植え付けられた  
彼岸花の球根



傾斜がきつい場所で  
植え付け作業を行う参加者



会話を交わしながら楽しく植え付け作業をする子どもたち

耳うどん  
作り体験



力を込めて生地をこねる参加者



足ふみ作業でこねた生地を伸ばす子どもたち



長方形に切った生地をていねいに  
耳の形に整える参加者



完成した耳うどんを味わう子どもたち



## 彼岸花を活用した 景観づくり

彼岸花の赤色と稲穂の黄金色が調和することで、秋に美しい景観となることから、京都学園大学からの提案により取り組みを実施。国道九号から見える位置に球根を植栽することで、下大久保区を彼岸花の名所としてPRするように考えられています。また、同区内にある梅林公園へ人を誘導するために、沿道に毎年千球ずつ球根を植えていく計画も検討されています。

## 地域の言い伝えを 食で表現した「耳うどん」

集落内にある「薬師堂」にお参りすると耳の病に効くとの言い伝えがあることから、京都学園大学のアイデアを基に、耳にちなんだ新しい名物づくりとして取り組まれています。

うどん生地を耳の形に折った麺が特徴で、「耳を食べると悪口が聞こえなくなつて近づきあいが上手いく」と言われていることから、郷土料理にしている地域もあります。これまで、同区の文化祭や京都学園大学で行われた「フレッシュユマンフェスタ」などのイベントで振る舞われており、今後は十一月六日の国民文化祭などで出店される予定です。

### インタビュー

下大久保虹の村づくりの会

会長 畠中二三雄さん



地元の田んぼにある彼岸花を利用して景観を良くすることで多くの人を呼び込みたいと思っていますし、耳うどんを地元の名物として広めていくことで「下大久保ファン」づくりにつながっていきたく考えています。何かを作るのではなく、在るものを利用して付加価値を出していきたいと思っていますし、今後も「心豊かに明るく楽しい夢と希望の持てる村づくり」を目標に活動を続けていきます。





今秋に京都府で開催される国内最大の文化イベント「国民文化祭」。本町では「魅せる・人形芝居フェスティバル」  
 ～伝えよう人形浄瑠璃のころ～と、関連事業として「京丹波・食の祭典2011」を開催します。  
 このシリーズでは、開催に向けて準備を進めている「国民文化祭」と「食の祭典」の魅力を探ります。

# 京丹波の心を伝える 「国民文化祭」と 「食の祭典」の魅力を探る

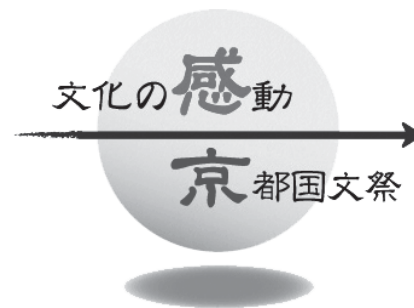
## 第一回 「国民文化祭とは」

「国民文化祭」と聞いてもイメージが浮かばない方があると思います。国民文化祭は、国内で伝統文化（民俗芸能など）や芸術文化（音楽、舞踏、演劇、吹奏楽、美術、文芸など）に親しんでいる個人や団体が集まって日ごろの練習成果や実力を発揮する場として開催されており、全国各地から多くの「文化」や「人」が集う国内最大の文化の祭典です。

歴史をたどると、昭和六十一年の東京都大会を皮切りに、熊本県（六十二年）、兵庫県（六十三年）、埼玉県（平成元年）と各都道府県持ち回りで毎年実施されており、昨年の岡山県に続いて京都府が二十六回目の開催会場となります。実に、近畿二府四県では兵庫大会から二十三年ぶりの開催であり、主体となる京都府では「ころを整える」文化発心 第二十六回国民文化祭・京都二〇一一

をテーマに、マスコットキャラクターやロゴマークの決定、実行委員会を設置するなどし、それに併せて各市町村も実行委員会を組織して準備を進め、府内一丸となった取り組みを展開しています。

国民文化祭は、十月二十九日から十一月六日までを期間として府内各地でさまざまなイベントが開催されるほか、今年一年間を「京都文化年」と位置付けて地域や団体での活動を呼びかけています。



### 地域特色を生かした多彩な催しが満載

国民文化祭では、オープニングとフィナーレを飾る「総合フェスティバル」が三事業、昨年十月三十一日を皮切りにリレー方式で行われている「シンボジウム」が四事業、府の広域事業が八事業、そして府内各市町村で行われる「分野別フェスティバル」が五十五事業計画されており、府内一円で七十事業が開催されます。

特に、分野別フェスティバルでは、開催地の特色を生かした多彩な催しが期間を通して行われます。

なお、南丹地域で計画されている事業は次のとおりです。

- 亀岡市  
 「亀岡祭」(十月二十九日)  
 「民俗芸能の祭典」(十月三十日)

### ● 南丹市

「工房と里の秋めぐり」里の秋マップ、「美術展」工芸」  
 (十月二十九日～十一月六日)

### メインテーマは「和知人形浄瑠璃」

本町では、地域の人々に愛され、親しまれてきた数ある伝統芸能の中から「和知人形浄瑠璃」をメインテーマに選び、日本各地で守り伝えられてきた人形浄瑠璃の共演を通じて、地域に愛着と誇りをもたらす伝統芸能を継承していくことの大切さを伝えることを目的に、「魅せる・人形芝居フェスティバル」を開催します。

開催に向けて、平成二十一年七月には町長を会長とした「第二十六回国民文化祭京丹波町実行委員会」を組織するとともに、企画委員会を設置して具体的な企画や実施方法などについて協議を重ね、地域全体で盛り上げる機運醸成を図りながら準備を進めています。昨年八月一日には、本番一年前を契機とした「プレ事業」を和知ふれあいセンターで開催し、三百六十五人が来場する中、町内からは和知人形浄瑠璃会や和知小・和知中学校、町外からは阿波木偶箱廻し



昨年8月1日に開催されたプレ事業の様子

を復活する会(徳島県)と南あわじ市立三原中学校郷土部(兵庫県)が出演し、各地で伝えられる人形浄瑠璃の素晴らしさを披露しました。

以降も、半世紀に一度の京都府開催に向けた準備が着々と進められており、今秋には全国各地に息づく人形芝居が本町に集結し、夢の共演が実現します。

今後ホームページやケーブルテレビなどを通じて国民文化祭の情報をお伝えしていきますので、文化に親しみ、楽しむ機会にしてください。

### ご存知ですか?

### PR隊長「まゆまる」



繭をモチーフにし、西陣織や京友禅の和装の出で立ちで京都の文化を伝えているのが、国民文化祭PR隊長を務める「まゆまる」。府内各地に出向いてPR活動をするとともに、ピンバッジやキーホルダーとしても製作され、幅広く国民文化祭をPRしています。

本町では、昨年八月一日のプレ事業をはじめ、九月二日にはローラーキャンペーンで役場と須知幼稚園を訪れ、今年度にはホッケーフェスティバルやあっぱれたんぼの田植え、観光協会設立総会などに参加しており、今後さまざまな行事に顔を出す予定です。



ローラーキャンペーンで須知幼稚園を訪問するまゆまる

## 成功させよう!「第26回国民文化祭・京都2011」

【期間】10月29日(土)～11月6日(日)

### ◆京丹波町主催事業◆

「魅せる・人形芝居フェスティバル～伝えよう人形浄瑠璃のころ～」「京丹波・食の祭典2011」

【開催日】11月6日(日) / 【開催場所】和知ふれあいセンターおよび駐車場特設会場

【問】国民文化祭に関しては 教育委員会 社会教育課 ☎84-0028  
 食の祭典に関しては 産業振興課 ☎82-3808



# 田園風景を鮮やかに彩る 「あっぱれたんぼ」

京丹波町の期間限定の観光名所「あっぱれたんぼ」。田んぼを舞台に、豊かな自然を身近に感じることができる取り組みが、今年も曽根地内で行われています。澄み渡る青空と降り注ぐ太陽光のもとで、苗の成長に応じて変化するカエルたちの姿を、みなさんぜひご覧ください。

イメージ図

あっぱれたんぼは、田んぼをキャンパスに見立てて、古代米や現代米など色の異なる数種類の苗を使って巨大なカエルなどを描く取り組みで、苗の成長に応じて絵柄が変化し、農村風景を鮮やかに彩ることから、田植えから稲刈りまでの間、多くの人々が見物に訪れます。

本町では、丹波自然運動公園を主体として、町と曽根区が協力して三年前から取り組みを実施。最初は二枚の田んぼを使って「カエルと太陽」を描くだけでしたが、昨年にはより美しい景観となるよう周囲の田んぼ二枚を使って黒豆やもち米を栽培。今年も国民文化祭のPR隊長である「まゆまる」を絵柄に加え、年々取り組み内容を充実させて実施しています。

ほかにも、毎年楽しめるようカエルの絵柄を変えたり、八月にはあっぱれたんぼを盛り上げる愉快な案山子の展示を計画するなど、工夫を凝らした内容で取り組んでいます。

## 今年の絵柄は 「カエル」と「まゆまる」

## 雨天の中で行われた 田植え作業

五月二十九日、あっぱれたんぼの田植えが行われ、地元曽根区の住民や公募で集まった約百人が参加しました。この日は台風二号の影響から大雨となり、かっぱを着ての作業となりましたが、参加者たちは先駆者である岡山県美作市の新田博美さんから植え付け方法などについて説明を受けた後、杭打ち作業によつて張り巡らされた糸に沿って、苗の種類を確かめながらゆつくりといねいに植え付けていきました。



植え付け作業を行う参加者(曽根地内)



「まゆまる」と「カエル」の絵柄が見渡せるよう、今年も同公園内のプール下にある駐車場に、高さ約5mの展望台を2基設置。開園時間内であれば無料で開放していますのでご利用ください。

イメージ図

## 丹波PA(仮称)と一体的な地域振興拠点整備に向けて

# 「基本計画策定委員会」と「ワーキング会議」が発足

京都縦貫自動車道に建設される丹波PA(パーキングエリア)と一体となった地域振興拠点の整備について総合的に検討する「丹波PA(仮称)と一体的な地域振興拠点整備基本計画策定委員会」(以下「策定委員会」)が発足し、6月15日に町中央公民館で初会合を開催。6月29日には「同拠点整備ワーキング会議(以下「ワーキング会議」)」が発足し、京都縦貫自動車道・丹波綾部道路の全線開通を見据えた誘客施設整備に向けての取り組みがスタートしました。

策定委員会は、行政関係者や学識経験者など十九人で組織。京都縦貫自動車道・丹波綾部道路が平成二十六年度末に供用開始予定であることから、通過するだけの町とならないための地域振興拠点整備に関し、施設の種類の規模、管理運営体制などの必要事項を盛り込んだ基本計画を策定することを目的として設置しました。

六月十五日の初会合では、委嘱状の交付が行われた後、島中源一委員長が「京都縦貫自動車道の開通は、近畿地域における利便性向上や、府域内における不均衡是正に大きく寄与するとともに、多大な経済的効果が期待されている。その反面、京都市から北部地域へ通り抜けをされてしまうリスクも高まることから、道路による地域振興を目指し、拠点施設整備に向けた計画策定について検討を重ね、より良い方向性を見出し、「いきた」とあいさつ。続いて、整備予定地の現状や先事例の紹介、京都縦貫自動車道の整備スケジュールなどについて事務局から説明を受けた後、施設整備の方向性などを話し合いました。

また、六月二十九日には、施設整備に関する提案や基本計画についての提言を行うことを目的に、

公募や推薦を受けた二十一人の委員で組織するワーキング会議が発足し、役場議場で初会合を開催。会合では、会長に龍谷大学の阿部大輔准教授を選出した後、施設の果たすべき役割について、ワークショップ形式による意見交換を行いました。

今後、策定委員会はワーキング会議とともに三回程度の会議を開催し、十月を目途に基本計画を策定する予定で、さまざまな観点から検討を重ねられます。



策定委員会の初会合であいさつをする島中委員長(町中央公民館・蒲生)

## 策定委員会委員

\*敬称略

委員長	島中源一	副委員長	宗田好史	京都府立大学生命環境科学研究科 准教授
委員	横山 勲	町議会議長	吉田 昭	町区長会長
	西畑幸二	曽根区長	田畑修一	町商工会長
	白樫 貢	町農業委員長	井上貞子	町女性の会丹波支部役員
	中村香澄	国土交通省近畿地方整備局福知山河川国道事務所 副所長	吉岡正男	府建設交通部道路計画課 参事
	小出美次	府南丹土木事務所 技術次長	河島幸一	府南丹広域振興局企画総務部企画振興室長
	大石耕造	府道路公社 総務部次長	野間広和	参事
	伴田邦雄	総務課長	中尾達也	企画政策課長
	久木寿一	産業振興課長	十倉隆英	土木建築課長
	山内善博	教育委員会 社会教育課長		

## 施設の検討場所



【問】土木建築課 開発プロジェクト推進室  
☎82-3806



地域包括ケアシステムの構築に向けて

# 「地域包括ケアシステム ネットワーク協議会」が発足

医療、介護、保健、福祉が一体となって高齢者を支援する地域包括ケアシステムの構築について検討する「京丹波町地域包括ケアシステムネットワーク協議会」(以下「協議会」)が発足し、5月30日に瑞穂保健福祉センターで初会合を開催。高齢者福祉の充実に向け、関係機関が連携を密にした取り組みがスタートしました。

協議会は、本年三月に提出された医療等審議会の第二次答申および京都府の京都市地域包括ケアシステム方針に基づき、高齢者が住みなれた地域で安心して自立した生活が営めるよう、医療、介護、保健、福祉の各サービスを包括的に提供するシステムを構築することを目的に設置。委員の任期は二年で、関係機関や介護保険事業者などの代表者十三人で組織しています。

初会合では、寺尾豊爾町長が委員に委嘱状を交付した後、「高齢者をはじめ、すべての町民のみなさんが安心して暮らせる福祉のまちづくりに向け、関係機関が連携を密にし、オール京丹波体制で包括的な支援ができるよう協力いただきたい」とあいさつ。続いて、役員の選出が行われ、互選により、会長に桐野正則さん、副会長に原貞之さんが選ばれました。

就任した桐野会長は、「各施設長やNPOのみなさんが一堂に会して京丹波町の高齢者福祉について話をする機会は初めてだと思

うので、住民と福祉をどのようにつないでいくか、どのような支援を行っていくかを、協議会として考えていきたい」とあいさつ。その後、医療等審議会の答申内容や京都市包括ケアシステムについての説明を受け、課題や方向性などを話し合いました。



初会合であいさつをする桐野会長(瑞穂保健福祉センター・和田)

- 協議会委員 ※敬称略
- 会長 桐野正則 (町社会福祉協議会事務局長)
- 副会長 原貞之 (丹波笠次病院課長)
- 委員
  - 中村弘 (丹波桜梅園事務局長)
  - 尾上正紀 (丹波高原荘施設長)
  - 船山永一 (瑞穂山彦苑施設長)
  - 井上良雄 (長老苑施設長)
  - 山下幾雄 (クローバーサービス事務局長)
  - 越川剛績 (まごころサービスあい・愛事務局長)
  - 稲葉耕太 (デイサービスセンターひだまり管理者)
  - 石田美恵 (町民生児童委員協議会丹波支部長)
  - 田中強 (町民生児童委員協議会瑞穂支部長)
  - 片山勝紀 (町民生児童委員協議会和知支部長)
  - 白数宗雄 (府南丹保健所参事)

【問】保健福祉課 ☎86-1800

## 『定期的に 入れ歯の健診を』

このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員がみなさんにお届けする健康情報コーナーです。  
今回の担当は和知歯科診療所の歯科技工士 堀太さん。疾病予防にもつながる入れ歯の定期健診の大切さについてのお話です。

**長** 期間入れ歯を使用していると、入れ歯がすり減ったり、歯茎やあごの骨がやせたりして、入れ歯が合わなくなってきました。

入れ歯の具合が悪いと、次のようなことが起こりますので気を付けてください。

### 入れ歯がすり減ると

- 食べ物を十分に噛み砕けなくなり、消化不良など内臓に負担がかかります。
- 噛めないことにより柔らかいものばかり食べるようになると、生活習慣病などの原因になります。
- 噛み合わせた時のあごの位置が悪くなり、食べ物を飲み込みにくくなる場合があります。また、あごの関節の動きと調和しなくなることから、あごの周りが痛くなったり、頭痛や肩こり、腰痛の原因にもなります。

### 歯茎がやせて入れ歯が合わなくなると

- 本来入れ歯全体に分散させている噛む力を、一部の歯茎で負担するようになるため、痛みが出たり、入れ歯の裏側や縁で歯茎を傷つけることがあります。



ほり ぶとし  
歯科技工士 堀太さん  
(和知歯科診療所)

### 適正な入れ歯で疾病予防を

入れ歯の安定が悪くなり、部分入れ歯の場合は残っている自分の歯にも大きな負担がかかります。歯がすり減った場合は、すり減った部分に樹脂を盛り足して修復することや、新しい人工歯と入れ替えることができますし、歯茎に合わなくなった場合は裏打ちをして合わせることもできます。

噛み合わせが良ければ病気の原因も少なくなり、噛むことで脳を刺激し老化防止にもつながりますので、入れ歯を使用されている方も半年に一回程度は定期健診を受診して確認されることをお勧めします。

和知歯科診療所での外来診察は、予約診察を基本としています。予約や相談など気軽に連絡してください。

☎84-11154

Dr's Message

# いきいき健康術 第47回



## 消費者と生産者が力を合わせた取り組み

### ■南丹おいしい食の応援隊

六月十八日と十九日の二日間、安井区と塩田谷区の有志で組織する農事組合法人・京丹波ほたるの里(谷山建夫代表)が、京都府事業の「南丹おいしい食の応援隊」を利用して黒大豆の定植作業を行いました。

この事業は、食に関わる生産者、消費者、飲食流通業者が、農作業の応援や地元産食材の提供を通して顔の見える付き合いをする中で、相互応援の絆を育むことを目的とするもの。今回は、応援隊(九人)と同組合員ら約三十人が参加し、黒大豆の苗取りをはじめ、約一町二反にわたって植え付け作業を実施。十八日の夜には懇親会やほたる観賞などを通じて親ほくを深めました。



力を合わせて植え付け作業を行う応援隊と組合員(安井地内のほ場)

取り組みを通じて、同法人の太田喜一郎監事は、「今回のように組合員だけではなく、農家でない人や都会の人たちと一緒に農作業ができれば、地産地消で都市と農村が一体となった社会づくりの先駆けになると思います」と話しました。

## 京丹波町病院が「初期被災」に指定

### ■指定を受け放射能をテーマに研修会を開催

京丹波町病院がこのほど、原発事故などにより被災した患者に対し、傷病などへの初期診療を行う「初期被災医療機関」の指定を受けました。

今回の指定は、福島県での原発事故を受け、E.P.Z(緊急時計画区域)の半径が十キロから二十キロに拡大予定であることから、福井県にある高浜原発の被災を想定して京都府が対応した。指定を受け、同病院では医療の見識を高めることを目的に行っている医療安全研修会のテーマを「放射能・放射線を学ぶ」とし、病院職員や和知診療所職員、保健師ら六十六人が参加する中、政府原子力災害専門家



放射能についてわかりやすく説明する遠藤学長(京丹波町病院・和田)

ループの一員として活躍する京都医療科学大学の遠藤啓吾学長を講師に招いて開催しました。研修会では、遠藤学長が「原子力災害が発生した場合、被災者などの数値だけでなく不安を持つのではなく、人体への影響がどの程度あるかを科学的な見地から判断することが重要となる。住民に不安を与えることがないよう、放射能に関する正しい知識を持ち、細心の注意を払った対応に心がけてください」とアドバイスを込めて講演されました。

## 交流を深めながらチーム優勝を目指す

### ■グラウンド・ゴルフ大会

第六回京丹波町グラウンド・ゴルフ大会(町体育協会主催)が六月十二日、和知グラウンドで行われ、集落などで構成された四十九チームが参加しました。

同大会は、一チーム六人のチーム対抗で行われ、六ゾーンに分かれて順位を競うもの。出場選手たちは、和気あいあいとした雰囲気の中で世代を超えた交流を深めながら、さわやかな汗を流していました。

なお、成績(優勝のみ)は次のとおり。  
Aゾーン 瑞穂J.A.O.Bクラブ  
Bゾーン 富田  
Cゾーン 下山  
Dゾーン グリーンハイツA  
Eゾーン 下大原  
Fゾーン 須知区A



仲間に見守られる中、ホールポストにめがけボールを打つ選手(和知グラウンド・安栖里)

## ボランティアで中学校の教育環境を整備

### ■町建設業協会青年部が地域貢献活動

京丹波町建設業協会青年部が六月十一日、町内三中学校において、ベンチ改修や体育設備撤去などの教育環境整備をボランティアで行いました。

同青年部は、発足以降五年にわたり、道路の美化作業をはじめ、保育所と幼稚園に桜の苗木や砂場用の砂を贈るなどの地域貢献活動を実施。今回は町内三中学校

を対象に、蒲生野中学校で赤松の景観整備、瑞穂中学校でテニスコートとグラウンドにあるベンチ八脚の改修、和知中学校でグラウンドにある老朽化したバスケットゴールの撤去作業を行いました。作業に先立って行われた開会式では、同青年部の和久田勝之部長が「わたしたちの仕事は環境破壊や道路渋滞などよくないイメージを持たれることがあります。現場の一線で働く若い世代が会社間を越えて協力して活動す

ることにより、そのようなイメージの払拭や業界の活性化、さらには地域の活性化につながればという思いから活動しています。実務経験を生かして精一杯がんばりましょう」と部員に呼びかけた後、三班に分かれて作業を実施。蒲生野中学校では、校舎横の中庭にある樹齢三百年と言われている赤松の根が流水により地面から出てしまうことから、重機を使って周囲を掘削し、土がずれないように間知石で囲む作業を行いました。



赤松周辺の環境整備を行う青年部員(蒲生野中学校・蒲生)

### 職員配置 (敬称略)

■退職(六月三十日付)

田中真由美(京丹波町病院看護師)

### 地域の伝言板

## わくわくBOX

翼つきの珍しいキュウリができました。飛行機のようにも見えるでしょ。今年のキュウリはみんな翼が生えたらいいのになー(笑)。

おもしろキュウリでみなさんに笑いを届けられたらと思い投稿しました。

(野間重次郎・本庄)



投稿ありがとうございます。大空に向かって今にも飛び立ちそうなキュウリの姿を見ると、気持ちが明るくなり元気付けられますし、食べるのがもったいないように感じますね。これからも楽しい話題をたくさん教えてください。

このコーナーは、「身近に起こった出来事」や「感動したこと」、「みんなに教えてあげたい・わたしの健康術」、「こんなサークル活動始めました」、など、読者のみなさんの身近な情報発信としてご利用ください。

【送り先】  
〒622-0292(住所不要)  
京丹波町企画政策課広報京丹波「わくわくBOX」係  
●ファックス/82-2500  
●Eメール/kikaku30@town.kyotamba.kyoto.jp

### 義援金などの受付状況

東日本大震災への支援として取り組んでいる「義援金」と、友好町・福島県双葉町への「復興支援募金」の受付状況をお知らせします。

受付金額	
義援金	8,345,305円
復興支援募金	3,441,976円

\*平成23年6月30日現在

### わたしたちの町

人口	16,492(-3)
男	7,795(-2)
女	8,697(-1)
世帯数	6,445(+13)
7月1日現在/( )は前月比	





ギターとアコーディオンのハーモニーに聞き入る参加者(大簾公民館・大簾)

## 美

### 美しい音色と蛍火で初夏を感じる

#### ■ほたるファンタジー

広野・大簾活性化委員会が六月十八日、大簾公民館周辺を会場として、「ほたるファンタジー」を開催しました。このイベント

は、大簾川に飛び交うホタルを見ながら広野区と大簾区の住民が集落を超えて親ぼくを深めることで、元気な地域づくりにつなげることを目的に実施。参加者たちは、ギター製作家の小坂武志夫妻が生演奏するギターとアコーディオンの美しい音色に酔いしれながら、大簾川を飛び交う無数の蛍火が醸し出す幻想的な光景に見

入っていました。同委員会の西村甚太郎委員長は、「幅広い年代の方々に参加いただき、そして楽しんでもらうことができてうれしく思います。今後、多くの人が集まって楽しめるイベントや街灯設置などの環境整備に努め、住みやすい地域づくりを目指していきたい」と話しました。

夏を迎え厳しい暑さが続きますが、今回は少しでも涼しさを感じてもらえるよう「琴滝」を表紙に掲載しました。編集子になって4年目となりますが、これまでに観光地の風景写真を使ったのはNo.39号の「日の出」だけで、今回が2回目。今後は、季節を感じる風景や美しい観光名所の写真も取り入れながら、広報の表紙を使って町の魅力を伝えていきたいと思ひます。(K)

#### 編集後記

## 地

### 元と町、大学が協働で跡地問題を考える

#### ■鳥インフルエンザ発生農場跡地活用構想策定に関する協定調印式

六月二十三日、鳥インフルエンザ発生農場跡地活用構想策定に関する協定調印式が役場議場で行われ、協定を結ぶ町と西部環境保全検討委員会(安井、塩田谷、森、曾根、院内、幸野の六集落で組織)、京都学園大学の関係者ら十六人が出席しました。

この協定は、平成十六年に鳥インフルエンザが発生した農場跡地が、周囲の環境や地域資源と調和した場所となるよう、三者が協働してさまざまな可能性や方向性を検討し、跡地活用構想を策定することを目的とするもの。寺尾豊爾町長は、「発生から長い年月が



調印後に固く握手を交わす内山学長(左)、林委員長(中央)、寺尾町長(役場議場・蒲生)

経過したが、鶏舎の後処理が大きな問題として残っている。協定締結を契機に、良い方向性が見出せるように協議を重ね、過程を大切にしながら構想策定に取り組みでいきたい」とあいさつし、その後、同検討委員会の林論委員長、寺尾町長、学園大学の内山隆夫学長の三者が、協定書に調印しました。

## ア

### アイスクリームとバターづくりを体験

#### ■ふれあいサタデークラブ

五月二十八日と六月二十五日の二日間、アイスクリームとバターづくりの体験教室が丹波食彩の工房で行われました。

この取り組みは、町内在住の中学生までの子どもと保護者が、毎週土曜日の午前中に町中央公民館に集まって楽しく活動する「ふれあいサタデークラブ」の特別教室として開催されたもの。六月二十五日には児童や保護者ら二十九人が参加し、食彩の工房の職員に教わりながら、地元食材を使ってアイスクリームとバターづくりに挑戦。参加者たちはおいしくできあがるよう、力を合わせてがんばっていました。



アイスクリームづくりを体験する参加者(食彩の工房・高岡)

また、この日は、友好町・福島県双葉町復興支援プロジェクト「双葉の鶴」(町社会教育委員主催)の取り組みも行われ、参加者たちは一日も早い復興を願って、折り鶴やメッセージカードに温かい気持ちを込めた言葉を書き込んでいました。